

知床の森から

平成7年12月
第40号



北見宮林支局 ☎ 099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地
知床森林センター ☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

ミスナラドングリ大凶作！

——— 非情な自然、野生動物に試練 ———

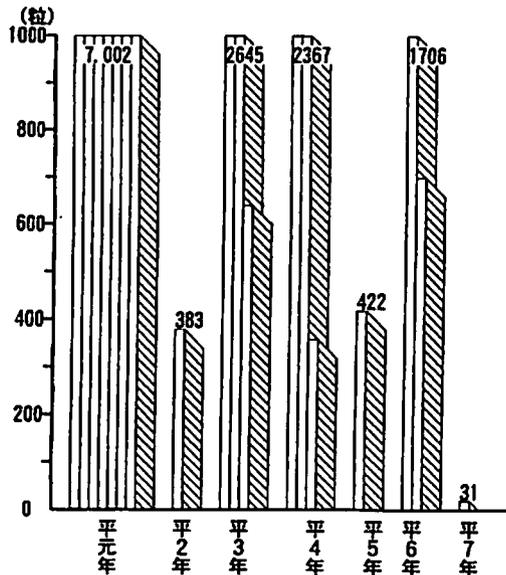
今年の6～7月の冷涼な気温は、ある種の予感を抱かせるには十分なものでした。結果は月を繰るごとに歴然となり、知床半島の代表的な主要樹種であるミスナラの結実が事実上凶作視されるにいたりました。突っついてくれというわずかな期待も、結実調査が進につれてみじんうちに打ちくだかれ、調査・分析の結果、今年の知床半島のミスナラドングリはまれにみる大凶作と結論づけることになりました。

知床森林センターでは、平成元年から『知床半島におけるミスナラ堅果結実調査』を実施しております。知床半島に2箇所の調査地を設け、ここにミスナラ25本の調査木を選び、それぞれの樹冠下に3個のシートトラップを配して落下する堅果（どんぐり）を収集するやりかたです。シートトラップは1m四方の開口部をもつビニール（土のう編み）製の浅い袋状で4本の鉄棒で支えられています。

トラップは計75あり、9月下旬から10月下旬にかけて、週一回計5回収集します。

1図によれば今年のドングリの調査木1本あたりの生産量は最悪です。平成2年の凶作時の12分の1以下です。昨年が決して豊作ではなかったのに、この生産量の落差は異常です。ミスナラの開花受粉のシーズンが、今年は晴天に見放され、かつ森林という環境のもとでは、この天候がより不利に作用したのだと思われます。

(1図) ミスナラ堅果生産量(調査木1本当り年平均)



ドングリの生産量の多少は、質的な特徴も語っています。2図によれば平成5年を除けば、重量階ごとの生産比率はほぼ正規分布を示しています(3.1g以上の階のグラフの跳ね上がりは、この階の範囲の大きさを示すもので、この階以降も0.5g刻みであればグラフは裾野を引きまします)。問題はこの正規分布の幅と頂点の位置です。今年の収集されたドングリは0.5-2.0gの範囲に集中しています。健全なドングリは大きさや重さは比例し、普通のドングリは2-3gであり、それ以上は大物となつて量も少なくなります。今年は普通以下の小粒な物ばかりです。大豊作だった平成元年と比較すれば、今年は量も質も最低最悪の大凶作といえるわけです。

ドングリは高い栄養価に富み、採食し易く食物源としては歩留まりも良く、野生動物にとって貴重な食べ物といえます。多様な生物群の生存の一助となっているのは事実です。

今年は野生の動物たちにとっては辛い年でしょう。自然はかれらになんとも非情な試練を課したものです。

ひそやかにラン

知床にもランが咲いている。森の中で人知れずひっそりと。蘭、人を虜にしてしまう不思議な花。熱帯地方を中心に世界中に分布し、その種類は1万数千種といわれる。

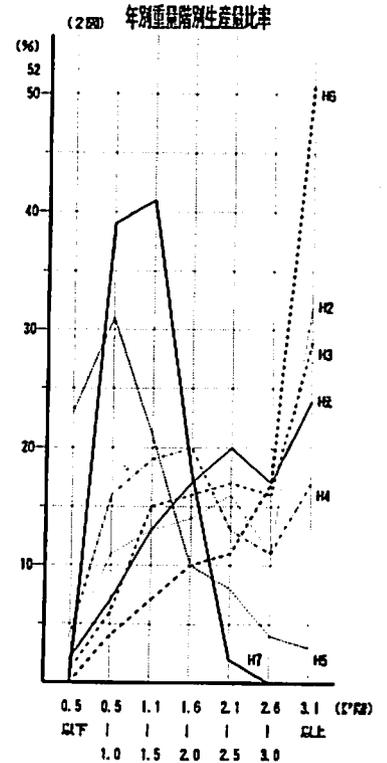
花は草花の中では最も高価であり、その美しさや多様な姿がたちから世界中に好事家も多く、また種子企業などのように企業戦略として世界に通じる価値をもつ実にメジャーな花なのである。この花、森林や草地に生え多年草の単子葉植物で、根は菌と共生しかつ虫媒花である。生育条件と環境から知床でも偶然発見することが多く、写真を撮りためている。知床・阿寒国立公園及び網走国定公園の指定植物のうち、知床国立公園の指定ラン科植物は14種であるが、実際にはもっとあると思われる。開発と採取・環境の変化で、この野生のランは世界的国内的にも姿を消しつつあるという。事実わ国における絶滅種・絶滅寸前種・絶滅の危険種が、ラン科植物だけでも140種もある。知床半島のランも大事に見守っていきたい植物である。



ノビネテドリ



サルメンエビネ



知床、この一年

悠揚たる知床の自然。レガレ一年のスパンで見えて、気候の異常が自然の営みに深く干渉すれば、わたしたちはそこに深刻な事態を知るようになります。冷夏の森、爽りなき秋の森、さまよう熊。とはいえ知床は、さりげなく冬に入っています。広葉樹はすっかり葉を落し、オホーツクの海は渡りのカモたちを慰むせながら垂そうにうなっています。オオワンも北方圏から飛来しております。センターでは一年のスケジュールをこなし、まもなく新年を迎えることになります。各種の業務の成果は追いついて紹介できるとおもいます。

そして本紙はちょうど40号になりました。今後も知床からの情報を発信し続けたいと思っております。それではみなさま、良いお年をお迎えください。